

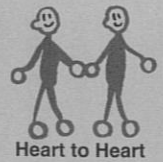
# ともしび通信

コープともしびボランティア振興財団

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町2丁目1番20号(コープリビング甲南2階)

TEL078-412-3930 FAX078-412-3871

発行人=竹本 成徳 編集人=宮内 明彌



Heart to Heart

第35号

2003年4月発行

知っていますか「傾聴ボランティア」を

## 共感して聴くことの難しさを学びました

2月1日(土)、コープリビング甲南多目的室で、SMILE(聖マーガレット生涯教育研究所)主任研究員・長尾文雄氏を講師に「傾聴ボランティア講座」を開催しました。

コープこうべの機関紙「きょうどう」2003年新春号にこの講座の案内が掲載されたところ、応募の電話やメールが殺到し、財団スタッフは嬉しい悲鳴

となりました。最終的には30人の募集定員のところ、100人近い応募があり、急遽次回の講座を次年度にも計画することとなりました。

「傾聴ボランティア」の活動は今、静かな広がりを見せています。「傾聴」とは人の話に耳を傾け、ゆつくりと話を聴き、共感し、心を開いてもらう活動なのです。

## 移送サービスの移管にあたって

## カーボランティア説明・交流会を開催しました

1997年の秋から始まったコープともしびボランティア振興財団の移送サービスは、2003年3月末をもって、兵庫県移送サービスネットワークへ移管することになりました。

利用者の皆さんには大変感謝され、またこの活動を通して多くのボランティアのみなさんが活躍し、育っていかれた場であったのですが、この間の社会情勢の急激な変化や移送サービス事業の専門化、財団設立当初の想定事業でなかったことなどから、より幅広いサービス提供の

できる団体に移管することになったものです(P2、P3にも関連記事)。

2月15日(土) 2時から、コープリビング甲南多目的室で、コープともしびボランティア振興財団の移送サービスを支えてくださったボランティアのみなさんの交流会と、4月からの移管先である兵庫県移送サービスネットワークの説明会を開催しました。

冒頭、コープともしびボランティア振興財団の金井塚事務局長より、これまでの活動への感

今回は、対人コミュニケーション「自己点検」、さまざまな「聴く」実習を行い、ロールプレイングでは聴くことの難しさを再認識しました。研修後のアンケートでは「聞くことではなく聴くことの難しさを学びました」「共感して聴くことの難しさをロールプレイングの中で体験し、よくわかったような気がします」「今日から家族の話を聴こうと思います」などの声が寄せられました。



2003年度には6月と9月ケアなどが身近になる中、この活動は今後ますます重要になってくると思われます。

に今回受けていただけになかった方々を中心に、4回シリーズの講座を開催する予定です。



経緯を説明させていただきました。

引き続き、兵庫県移送サービスネットワークの西村理事長より、ネットワークでの移送のシ

ステムを丁寧に説明いただきました。兵庫県移送サービスネットワークは、本拠地が明石市ですが、この3月から芦屋市にも事務所を立ち上げ、新たな活動拠点となります。

ボランティアのみなさんからは、質問や意見が相次ぎましたが、ご意見としては、「財団がこれまで、経費をかけながらも重度障害の子どもさんや高齢者の移送を続けてきたことは、誇れることだと思う」「財団での活動がなくなることは、率直に言って淋しいが、新たな活動の場をこうやって提案いただけたので、新しいところでお役に立っていききたい」など、前向きなご意見を頂戴しました。